

第5回全学実行委員会議事要旨

文責:阿部潤

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

委員長(全学実行委員長)

局長(全学局長)

会計(全学会計)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

工(工学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

医(医学展代表)

文(文系祭代表)

理(理学祭代表)

※今回理学祭代表は欠席である。

その他の略称:

各祭(北大祭を構成する上記の各種学祭)

委員会(委員会という場合、組織としての全学実行委員会を指す)

実委(実委という場合、会議としての全学実行委員会を指す)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

1. 榆陵祭からの提案

教養棟付近の使用制限により、模擬店の出店可能団体数が大幅に減少すること、教養棟前のステージの設営が不可能であること、教養棟付近における事務局およびレントオール会社の作業が困難になること、健康診断のため10月中のクラーク会館の借用が不可能であることから、模擬店含め榆陵祭参加団体の8割以上が参加不可能になってしまう。このため前回の決定を覆す形になるが、開催時期の再検討を求めるものである。選択肢としては、①9月10日～12日、②9月13日～30日、③10月中を設けるつもりである。①の選択肢は、②・③の選択肢において共用棟が使えなくなるとレントオール業者が対応困難になるために追加したものである。

文)11月が候補としてあがることはあるか。

榎) 11 月について屋外団体の関係および各祭がいなかったことから、選択肢から外している。

工) 全学実行委員会で所轄のものについても、教養棟が使えないことによる不都合はあるか。

局長) 全学としても、事務局としても教養棟が使えない状況は、企画や準備の点から好ましくない

工) 榎祭の予算が足りないことにより、榎祭が開催されないということはあるか。

榎) 開催されないという選択肢は考えていない、模擬店を出すということを重視したい。

文) 北大祭事務局渉外担当を兼任していてその観点からの意見となるが、9 月中は渉外賛助でお金を集めることは厳しい。またステージの設営も 9 月中旬から 10 月中旬くらいは厳しい。共用棟が 11 月 6 日・7 日にも使えるので、その日程を候補として入れてもらえないだろうか。

獣医) 獣医学祭の立場でも 11 月を候補に入れてほしい。

工) また状況が変わる可能性があるので、再検討するということのみを今決めて、日程については後日決めることにするのはどうだろうか。

獣医) 再検討については賛同できるが、この日程の 3 択には賛同しかねる。再検討と日程決定のそれぞれで多数決を取るのか。

委員長) それぞれで決議を取る。

榎) 11 月の開催も候補に入れることにする。

医) 公衆衛生や人々の健康を担うものとして、北大祭を対面で開催するということに対するリスクがあると考える。そのようなリスクを取ってまで模擬店の数を減らしたくないという意見を出す理由を聞きたい。医学展の立場では、北大祭を対面で開催することを反対している。オンラインになった時の模擬店の代替案を考えることはできるのか。

委員長) 2 点目について、オンライン開催となった場合、通常の対面開始の場合、食品提供ができない場合についての 3 パターンについて事務局内部で検討中である。

榎) 現在対面での開催を想定している。なるべくより多くの参加団体が参加できるような開催形態を目指している。

医) 最高の状態ではなく、最悪の状態を仮定して考えたほうがいいのはいいのではないのか。そのためオンラインでの企画を榎祭側で呼びかけることはないのか。

榎) オンラインでやるということを完全に考慮に入れていないというわけではない。しかし今は対面でやることを想定して考えている。

医) 医学部の立場では対面開催を勧めることはできないことを勘案してほしい。

局長) 榎祭も関係しているが、事務局も関係があるので事務局長の方からも意見する。オンライン開催を考慮していないというわけではない。様々なプランを想定して計画している。できるだけ祭でやれることが多くなるようなプランを取ることにしている。そのため今は対面開催について考えている。

委員長) 今話している内容は現在の論点とずれているように感じる。そのためまた別の機会に話し合いたい。

医) 各祭に対して、オンライン開催の準備はどれくらいできているのか

獣医) 獣医学祭としては、学部の研究や学生生活について話すと思うが、それははたして北大祭でやることなのかと考えている。対面で開催されなかったら、獣医学祭は中止にすることを考えている。

IFF) IFF の準備は祭りの 1 ヶ月前に始まる。よってまだ準備はしていない。全体として決まり次第動き始める。

工) 以前のことを考えて対面前提で動いているが、オンラインもないわけではない。

医) オンラインで何をやるかに至っていないところが多い印象がある。医学展としては対面で開催することは推奨できないので、最悪の状態を考えてオンラインの企画も考えてほしい。

委員長) 開催形態について議論したい場合は事前に言っていただけると助かる。

委員長) 榆陵祭に対して、再検討・及び日程に関する多数決はそのように行うか。

榆) 再検討についてはいま多数決を取る。これまでの候補に加えて 11 月も候補に加える。(つまり

①9 月 10 日～12 日、②9 月 13 日～30 日、③10 月中、④11 月中の四択である)

獣医) 今すぐに開催日程を決めるのは無理があるのではないか、後日に回すのはどうか。

榆) 再検討に関する採決は今取るが、開催日程に関しては次回以降にする。

・再検討についての議案

棄権:0

不承認:1

承認:8

議案は承認された。よって開催時期を再検討し、次回の実委で開催日程を決定する方向とした。

2,近況報告

食品提供を行わないプランの作成、食品提供を縮小したプランの検討をしている。

3,開催日程について

10月の開催日程について、各学部棟の使用状況から考えると、9日、10日が現時点での第一候補である。また各祭代表者は9月中及び11月6日、7日の各学部糖の利用状況の確認をお願いする。

4,食品提供について

食品提供に関しては、事務は否定的である。事務から明確な形で食品提供の可否を言及される可能性は低い。そのため全学実委で話し合う必要があると考えた。全学実委で決定することで早

期に指針を設けることが出来る。食品提供に関しては各祭間でかなり意見が分かれるため来週の実委で意見交換を行いたい。「食品提供にかかる要望書」を事務に提出する予定だが、このご時世で提出することは難しく、また内容も精査しなければならない。提出する場合は全学実委として提出するため、提出の可否も来週の実委で決定したい。食品提供を行わないプラン・食品提供を制限したプランの共有も行う。これらを判断材料として考えていただきたい。

5,今後の予定

6月7日(月)18:30～前期第6回全学実委

→詳細な開催時期の決定、食品提供の是非について(議論)、要望書の提出について(投票)

6月14日(月)18:30～前期第7回全学実委

→食品提供の是非について(投票)

6月21日(月)18:30～前期第8回全学実委

→中止またはオンライン開催の決定時期について

6,最後に

工学祭代表より、これまでの全学委員長などの経験からなんのために北大祭をするのかについての意見があった。北大祭が北大祭たらしめているものは「大学の研究から派生する学術性」と「若者が集まることで生まれるエネルギー」である。これらは今までの北大祭でも維持されている。それを位置づけるものとして北大祭基調というものがある。北大祭基調に背かないものを考えなければならないと考える。各祭の事情はそれぞれあると思うが、あくまでも北大祭全体のことを考えて発言してほしい。

以上